

るのではないか。

この度の指導要領の改訂で、地元のわらべ歌や民謡を取り上げることが強調されていることは、非常に喜ばしいことである。

指導内容とその教材

日本音楽に限らず、限られた時間数で効果的な指導をするためには、教材の精選が重要なポイントになることはいうまでもない。しかし数多い名曲の中から、わざかな曲を選ぶことは至難なわざだけに、このことがさしあたつての問題となる。私は次のような教材を選んでいる。

1、古代・大和時代

神樂

日本古来の神楽（巫女舞・採物

神楽）

県内各社の巫女舞や出雲流神樂を教材とし、芸能の起源や意義を解く。

能

(1)能の特色

(2)能の構成と演目

(3)楽器と能舞台

(4)能の作者と流派

（教材）

「羽衣」「隅田川」「安達原（黒塚）」

スライドと、レコードの組み合

わせでもよいが、ビデオを用いる

と予想以上に効果は大きい。

また「羽衣」はストーリーがよく

知られており、舞の美しさがじゅ

うぶん味わえる。「安達原」は、地

元の題材だけに、生徒も心を寄せ

るが、しかしこの能楽の教材の中

で劇的な効果で最も感動をよぶの

が「隅田川」であろう。

最も大規模な舞台芸術だけに、されば本舞台を鑑賞させたいものである。教具はビデオに限る。

「勧進帳」は構成のすぐれた名

作で、型を知らせるのにもよい。

「与話情浮名横櫛」は俗に「切ら

れ与三」といわれている世話物で下座音楽の説明にも適切な教材である。